

熊本高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	比較文化論
科目基礎情報						
科目番号	0120		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	岡田憲治『デモクラシーは、仁義である』（角川新書）など、一般的にも読みやすいテキストを相談により決定する。					
担当教員						
到達目標						
1.現代日本のデモクラシーの問題点について理解する。 2.ヨーロッパにおけるデモクラシーの歴史について理解する。 3.デモクラシーを支える思想について理解する。 4.日本やヨーロッパのデモクラシーの実態について、映画などの映像資料から理解する。 5.主権者として役割について理解する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
デモクラシーの条件に関する基礎的知識を獲得し、レポートで適切に記述できる。	講義で提示された基礎知識を十分に理解しレポートで答えることができる。		講義で提示された基礎知識をある程度レポートで説明することができる。		講義で提示された基礎知識についてレポートで答えることができない。	
講義内容について、教員の口頭での説明も丁寧に聞き取りながらノートをとることができる。	講義における教員の口頭での説明を十分かつ丁寧に聞き取りノートに取ることができる。		講義における教員の口頭での説明を聞き取りノートに取っている。		講義における教員の口頭での説明を聞き取りノートに取ることができない。	
講義の説明項目について意味を理解し、試験において「パラグラフ・ライティング」の方法にしたがって1000字程度の文章を作成できる。	講義の説明項目について意味を十分に理解し、「パラグラフ・ライティング」の方法に基づき1000字程度の文章で適切に記述できる。		講義の説明項目について意味を理解し、「パラグラフ・ライティング」の方法に基づき1000字程度の文章で記述できる。		講義の説明項目について意味が理解できない、または文章で意味が通じるように記述できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	「デモクラシーの比較政治」と題して、現代日本のデモクラシーを、西洋のデモクラシーの歴史、制度、思想の地平から考察することを目的とする。現代日本におけるデモクラシーの機能不全が叫ばれ、それが現実化している現在、デモクラシーを生み出したヨーロッパのデモクラシー論に立ち返ってそれを再考することは、小手先ではなくラディカル（根源的）に政治の世界を見つめ直す堅固な知的基盤を与えてくれる。また現代日本で実際に行われている政治のありようを映画など映像資料も駆使しながら学ぶことで、読書だけにとどまらない、よりリアルな現実政治認識を培いたい。					
授業の進め方・方法	ゼミ形式。指定の文献を読み、その要約を発表する。加えて、理解できなかった箇所や批判点も提示して、みなで議論する。また、本科目の特徴として、テーマに即した映画やTVドラマなどの視聴覚資料を多用する。					
注意点	・毎回の報告資料をしっかりと作成すること。その際、「パラグラフ・リーディング」ならびに「パラグラフ・ライティング」の作法に忠実に作成することを特に意識すること。 ・特に理解できなかった箇所について、箇所を明確にし、どのように理解できなかったのか、を説明できるように準備しておくこと。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	イントロダクションー本講義の進め方 視聴覚資料ー「政治」そのものを扱った映画等（例として『1984』）。。		本講義の基本方針について理解する。	
		2週	視聴覚資料ー「政治」そのものを扱った映画等（例として『1984』）。		（現代）政治に関する視聴覚教材を視聴し、その問題点を理解する。	
		3週	文献講読①（例として『デモクラシーは仁義である』）。		日本におけるデモクラシーの現状について扱った文献を講読して、そのしくみ、問題点、主権者としてのあり方について理解する。	
		4週	文献講読①（例として『デモクラシーは仁義である』）。		日本におけるデモクラシーの現状について扱った文献を講読して、そのしくみ、問題点、主権者としてのあり方について理解する。	
		5週	文献講読①（例として『デモクラシーは仁義である』）。		日本におけるデモクラシーの現状について扱った文献を講読して、そのしくみ、問題点、主権者としてのあり方について理解する。	
		6週	文献講読①（例として『デモクラシーは仁義である』）。		日本におけるデモクラシーの現状について扱った文献を講読して、そのしくみ、問題点、主権者としてのあり方について理解する。	
		7週	文献講読①（例として『デモクラシーは仁義である』）。		日本におけるデモクラシーの現状について扱った文献を講読して、そのしくみ、問題点、主権者としてのあり方について理解する。	
		8週	視聴覚資料ー政治の現状について扱った映画等（例として、想田和弘『選挙』）。		（現代）政治に関する視聴覚教材を視聴し、その問題点を理解する。	
	4thQ	9週	視聴覚資料ー政治の現状について扱った映画等（例として、想田和弘『選挙』）。		（現代）政治に関する視聴覚教材を視聴し、その問題点を理解する。	
		10週	文献講読②（例として、B・クリック『デモクラシー』岩波書店）		欧米におけるデモクラシーの現状について扱った文献を講読して、そのしくみ、問題点について、日本との相違を理解する。	

		11週	文献講読②（例として、B・クリック『デモクラシー』岩波書店）	欧米におけるデモクラシーの現状について扱った文献を講読して、そのしくみ、問題点について、日本との相違を理解する。
		12週	文献講読②（例として、B・クリック『デモクラシー』岩波書店）	欧米におけるデモクラシーの現状について扱った文献を講読して、そのしくみ、問題点について、日本との相違を理解する。
		13週	文献講読②（例として、B・クリック『デモクラシー』岩波書店）	欧米におけるデモクラシーの現状について扱った文献を講読して、そのしくみ、問題点について、日本との相違を理解する。
		14週	文献講読②（例として、B・クリック『デモクラシー』岩波書店）	欧米におけるデモクラシーの現状について扱った文献を講読して、そのしくみ、問題点について、日本との相違を理解する。
		15週	学年末試験	課題テーマに対するレポートを、パラグラフ・ライティングの方法を採り入れて作成する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	0	40
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	30	0	0	0	0	0	30